OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	バンコクの住民における高血圧の実態および影響因子　大阪の都市住民との比較を通して
Author(s)	高林, 弘の
Citation	大阪大学, 1997, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/40000
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

氏名	高林弘（たかばやしひろ）の
博士の専攻分野の名称	博士（医学）
学位記番号	第 13015 号
学位授与年月日	平成9年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 医学研究科社会系専攻
学位論文名	バンコクの住民における高血圧の実態および影響因子 大阪の都市住民との比較を通して
論文審査委員	（主査） 教授 多田羅浩三 （副査） 教授 森本 兼曩　教授 荻原 俊男

論文内容の要旨

【目的】

タイ王国は総人口が5900万人（1994年）であるが首都バンコクに約560万人が居住している。タイでは近年の急激な経済発展に伴って地方から多くの人口がバンコクに流入しており，都市化にともない生活習慣や環境の急激な変化が生じている。したがって今後都市住民における健康問題が一層重要になってくると考えられる。1992年のタイにおける死因においては心疾患は第1位，脳血管疾患は第7位であったが，これらの疾患は近年増加の傾向にある。虚血性心疾患や脳卒中などの大きなリスクファクターのひとつとして高血圧はよく知られている。また高血圧は先進国に多く発展途上国には少ないと言われてきたが，近年後者においても工業化，都市化にともない都市部では増加しているという報告を認める。タイの住民において高血圧者の割合を調べた報告はあるが，そのほとんどは地方におけるものである。またリスクファクターとの関係を調べた報告もまれである。

本研究は，大阪の都市住民との比較をもとに，バンコクの住民における血圧の実態および高血圧に関与する因子を明らかにすることを目的として実施したものである。

【方法】

バンコク都南部に人口14.5万のバンコレム区があるが，この区の東側3分の2をしめるのが人口5.6万のバンクロー準区である。対象はこの準区の地域の住民である。1993年における総世帯数は2518戸，人口総数は9131人で，この地域においてはバンコク都立ヘルスセンター18の保健婦が隔年毎に悉皆戸別訪問し，住民の氏名，性，年齢，住居，家族，社会的状況などのききとり調査を施行している。本調査をもとに，さらに本研究ではそのなかから15歳以上の住民の13%を無作為抽出し対象として，1994年6月18日から同年7月15日の間にヘルスボランティアが戸別訪問し，709名の住民について血圧，身長，体重測定および健康習慣に関するききとり調査を施行した。

大阪府S市では市民健診を集団方式の市民総合健診と個別方式の医療機関委託方式の2方式によって実施している。本研究ではS市保健センターにおいて1994年の5月から6月の週日8日間に市民総合健診を受診に訪れた18歳以上の市民を対象に，生活習慣のききとり調査を行った。受診者総数は3195人（男性943人，女性2251人）でそのうちアンケートの回答を得た者は3074人だった。

高血圧の判定は1978年に決められたWHOの分類基準に準じた。肥満度の判定は1989年の日本肥満学会の判定基準に基いた。

両国間の比較を行うにあたって，対象者は18歳から69歳までの住民に限定し分析した。群間の割合の差の検定はx^2検定を用い，有意水準を$p<0.05$とした。

【成績】

(1)高血圧者の割合は，バンコクの住民において男性で11.3%，女性で11.7%であり，大阪の住民においてはそれぞれ5.9%，4.3%であり，バンコクの住民において高血圧者の割合が有意に高かった。性，年齢階級別の比較においても29歳以下の男性をのぞく全ての階級においてバンコクの住民において有意に高率であった。

(2)肥満者の割合は，バンコクの住民において29歳以下の男性を除いて男女とも全ての年齢階級で，大阪の住民よりも高い傾向を認めた。特に30歳以上の女性では肥満者の割合が31%を越えており大阪に比べ約3倍であった。

(3)バンコクの住民における血圧と肥満の関係をみたところ，肥満の者においては高血圧者の割合は男性で64.4%，女性では55.1%であり，非肥満者における高血圧の割合はそれぞれ38.5%，33.8%であった。男女とも有意に肥満者において高血圧者の割合が高かった。

(4)生活習慣

飲酒者の割合はバンコクの住民において男性44.5%，女性10.7%であり，大阪の住民ではそれぞれ64.6%，17.0%であった。バンコクの住民において飲酒者の割合が低かった。

非喫煙者の割合はバンコクの住民において男性53%，女性90.7%であり，大阪の住民ではそれぞれ50.7%，88.6%で，ほとんど差を認めなかった。

(5)過去1年間の血圧測定の経験ある者の割合は，バンコクの住民において男性は47.0%，女性は50.4%であり，大阪の住民においては男性71.8%，女性68.3%であった。過去1年間の血圧測定の経験ある者の割合は大阪住民において有意に高かった。

【総括】

バンコクにおける都市住民の血圧の実態および血圧に影響を与える因子を明らかにするため血圧，肥満度，生活習慣の調査を行った。バンコクの住民における高血圧者および肥満者の割合は男女とも大阪より高値であった。またバンコク住民において肥満のある住民では高血圧者の割合が高値であった。一方バンコクの住民においては大阪の住民と比べ飲酒や喫煙の習慣を有する者の割合は少なかった。以上のことよりバンコクの住民における高血圧者の割合が高い要因として，住民における肥満者の割合が高いことが関与していると考えられた。今後，バンコクにおける血圧対策としては，肥満防止のための住民教育の充実が特に重要である。また最近1年間のバンコク住民の血圧測定経験は，中高年者において有意に少なかったことより，健診などにより血圧測定の機会を増やす必要があると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は，大阪の都市住民との比較をもとに，バンコクの住民における血圧の実態，および高血圧に関与する因子を，明らかにすることを目的として実施したものである。

バンコク都南部のバンクロー準区の地域の住民が対象である。この地域では保健婦が隔年毎に悉皆戸別訪問を行い，住民の氏名，性，年齢，社会的状況などのききとり調査を施行している。本調査をもとに，さらに本研究では，15歳以上の住民の13%を無作為抽出し，1994年6月から7月の間にヘルスボランティアが戸別訪問を行い，709名の住民について，血圧，身長，体重測定および健康習慣に関するききとり調査を施行した。大阪においては，府下のS市の市民総合健診を受診に訪れた18歳以上の市民を対象に，1994年の5月から6月の週日8日間に生活習慣のききとり調査を行った。受診者総数は3195人でそのうちアンケートの回答を得た者は，3074人であった。このうち18歳から69歳の住民を対象に分析を行い，以下の結果を得た。

バンコクの住民における高血圧者の割合は，男女とも大阪の住民より高値であった。またバンコクの住民において，肥満者の割合は大阪の住民より高値であり，肥満のある住民では肥満のない住民と比べて高血圧者の割合が高値であった。また，生活習慣に関しては，バンコクの住民は大阪の住民と比べ，飲酒および20本以上の喫煙の習慣を有する者の割合が低率であった。

以上の結果より，バンコクの住民における高血圧者の割合が高い要因として，肥満者の割合が高いことが関与していると考えられた。本研究は，今後のバンコク住民の高血圧対策として肥満防止のための健康教育の充実が重要であること，また健診などの実施により，血圧測定の機会を増やす必要があるということを明らかにした点で貴重であり，学位に値する。